

充実した学会ホームページとアーカイブス機能

| 細田 眞司 Shinji Hosoda

筆者は2010年7月号巻頭言「学会のホームページについて」、2016年6月号巻頭言「学会活動における情報共有と発信について」において、広報委員会の活動を紹介してきた。当学会の情報を取り扱う主要な機能と構造の根幹をなす委員会は、IT関連の開発を担当する「情報システム委員会」、個人情報保護などを安全に管理する「情報管理委員会」、ホームページ（HP）掲載、メール配信などを行う「広報委員会」である。特に、学会からの情報のアウトプットは、学術出版とともに広報機能が担っており、情報伝達は学会の重要な機能であると位置づけている。近年の情報伝達の量的および質的な変化は著しく、筆者が2010年に記した巻頭言当時と比べると隔世の感がある。このような背景において、特に広報機能として、統合的に情報伝達機能の新たな効率化を行うといった課題を模索してきたが、その1例として学術的重要性の高い『精神神経学雑誌』『PCN』『PCN Reports』をHP上で掲載し、会員に公開するという広報と出版機能を相互に連携するということが挙げられる。

今回の巻頭言では、「広報委員会」のすべての試みについて言い尽くせるものではないが、本稿ではそのなかでも広報機能の重要な柱の1つであるHPに絞りご紹介したい。HPで、専門医関連を除くと、最もアクセスの多いのは、「一般の方へ」欄の「こころの病気について」である。半年で約18万件（トップ10位より集計）のアクセスがある。疾患、治療法などについてその分野のエキスパートがQ & A形式で執筆したものが掲載されている。近年、ICDなどの診断基準が改訂されているが、執筆者の先生方にはそれに併せて改訂を依頼しており、この欄を一読して、利用していただきたい。

「医学生・研修医の方へ」の欄では、「精神科医のキャリアパス」として、さまざまな領域で活躍されている先生方に「精神科を志した理由」「どのような働き方をしているか？ その働き方を選んだ理由」「精神科を選んでよかったこと」「医学生・研修医の方へのメッセージ」を語ってもらっている。医学生・研修医にぜひ勧めていただきたいが、生き生きと活躍をしている先生方の姿に現役の誰もが心が躍る内容である。

同欄には「研修医のための精神科ハンドブック」のPDF版を掲載している。医師臨床研修においては、精神科研修は必修となっていることから、錚々たる執筆陣によって習得すべき内容が明晰に述べられており、精神科を専門としない他科をめざす研修医にも、大変有用な情報が簡潔に述べられている。研修

医、指導する先生方の必読文献といえる。「研修医のための精神科eラーニング」には「精神医学の魅力」（神庭重信先生）、「うつ病の診断と治療」（井上猛先生）、「統合失調症」（池淵恵美先生）、「認知症」（渕野勝弘先生）、「依存症について」（樋口進先生）の動画コンテンツがあるので、研修指導の場面でぜひ活用していただきたい。

また、本学会の発展とともに、HPのアーカイブ機能の重要性が増してきている。「見解・提言・声明欄」では、2001年以降に本学会が発出してきた見解声明提言を掲載している。例えば、2009年の「精神科医療および精神保健・福祉の積極的推進の訴え」（略称：七者懇松沢宣言）はその後の精神疾患が医療計画の基本疾病に含まれるように要請した宣言であるとともに、今日でも精神科医療の抱える課題が訴えられている。

『精神神経学雑誌』は2007年からのバックナンバーが閲覧できる。先に挙げた巻頭言も閲覧可能である。PCN Virtual Issue「新型コロナウイルス流行に伴うメンタルヘルスの諸問題」はこの間の新型コロナウイルス感染がメンタルヘルスに与えた影響を理解するのにうってつけである。この特集も後年のアーカイブとして重みをもつものになるであろう。

世界精神医学会（WPA）の『World Psychiatry』のバックナンバーも2002年から閲覧できる。2002年のAHMED OKASHAの「中東における暴力の激化に関するWPAの提案」（第12回WPA横浜大会）を読むと、彼の地の状況が20年経っても悪化の一途を辿っていることへのやるせない思いが募る。ちなみに、英語はDeepLなどの翻訳ソフトで容易に日本語で読むことができる。また、国際委員会の若手の先生を中心に『World Psychiatry』の要旨を翻訳し、掲載している。

さらに2014年に行われた日本記者クラブにおける神庭重信先生の講演「精神疾患用語改定の背景」も視聴できる。精神医学用語をどのようにすべきかという課題が明確に語られている。この講演を視聴すると、現在も続けられている精神科用語検討委員会、ICD-11委員会の活動の意義の大きさを改めて感じる。これと併せて、「連載 ICD-11『精神、行動、神経発達」の疾患』分類と病名の解説シリーズ」を閲覧いただくとより理解が深まるものと考えられる。

広報委員会では、引き続きHPの利用を促進するとともに、今後もソーシャルメディアなどの利用、各委員会の報告・資料掲載など、情報発信、情報共有を推し進めていく予定である。